

# みらい通信

市民派・チームみらい  
杉山元則 古川明美

事務所 蘇原六軒町 2-9  
電話 383-2900 FAX260-8233



新型コロナウイルスが猛威を振るい、その対策で生活が一変しました。どんな職業でも、コロナ禍の中、現場で働く方は体を張って頑張っています。議員は、今こそ議会でしっかり議論する。「政治」が頑張る時です。しかし感染防止で「質問短縮をお願いします」と議長が要請。大半が質問を絞りました。ぜひ、各議員の発言をチェックして欲しい。そのための「市議会だより」の改革を訴え続けています。



日々の活動はブログ  
「なないろ通信」  
古川あけみ←検索

## 小中学校で児童生徒に1人1台タブレット導入!

国は、新型コロナウイルスの緊急経済対策として今年度中に、児童生徒に1人1台タブレット購入を決定。導入については様々な課題がありますが、各務原市はスピード重視の先議で、所管の委員会付託なしで決定。

(私は急がずきちんと議論をするべきと訴えました)



- ・授業でどう活用するのか。
- ・先生の負担は増えないか。
- ・更新時期の費用は保護者負担か。
- ・Wi-Fi環境のないご家庭は。

・先生、児童生徒、保護者の意見は聞いたのか。説明は?  
・LINEのいじめ、個人情報の流出、誹謗中傷対策、ネットリテラシー教育はどうするのか。

上記を確認し、今後も十分に議論する機会を用意することを要望して、予算に賛成しました。

## 通常の教職員研修は負担ではないか?

子どもたちの学習面、心のケア、健康管理、先生方の負担軽減を考えると、通常の研修の見直しが必要であると考えます。

●古川質問 パワーアップ講座、トワイライト研修は従来通りの内容か、負担軽減を考え、内容の変更があるのか。

△教育長答弁

意欲的に希望する教員のための研修です。変更の予定はありません。

むしろ参加した教員から「参加して良かった」との感想があった。

●古川の意見

やることに追われ、研修を負担に感じた時「途中で辞める」と言える環境への配慮をお願いします。



## どうして簡易給食?

学校再開ガイドラインの感染対策。

- ① 感染源を絶つこと
- ② 感染経路を絶つこと
- ③ 抵抗力を高めること

With コロナ。ウイルスとの共生には

③の抵抗力を高める体づくりが一番大切と考えています。

・保護者の意見は聞いたのか?

・なぜお弁当ではなく簡易給食?

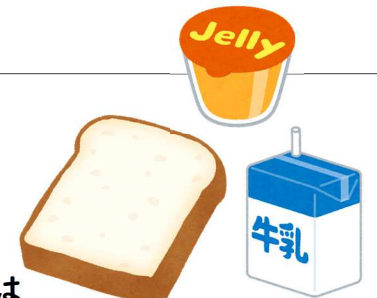
・3週目から1品、4週目から汁物追加、配膳再開の根拠は。

△市の答弁

献立表は配布するが、従来通り意見は聞かない。お弁当は、保護者に多大な負担をかける。配膳再開は会話を控えた食べ方習得に専念。徐々に感染防止に配慮の配膳を身につける。

●古川の意見

抵抗力を高めるために食事を大切に考え、緊急事態だからこそ保護者の意見を聞く。食育強化は未来への投資です。



## 子どもの意思表明権、社会参画権は保障されてる?

学習時間確保を第一とし、学校行事や特別学習の時間が削減。心豊かな体験の場を失うことが、子どもたちの未来に与える影響を危惧します。子どもの気持は?意見をいう権利は?

●古川質問

修学旅行の実施については子どもの意見を聞くのか。

△教育長

通常の場合と今回の場合は少し違う。最も大切な健康や命に関わる事。子どもの意見の通りにはいかない。子どもには十分説明をし修学旅行をどうしていくか考えていく。

●古川の意見

子どもは社会を創っていく担い手。決定の場に参画できる体験が大切。自分で考え、決めて行動することは、人から言われたことをこなすより、実は大変で責任を負うということも学びます。今こそ子どもの権利条約を啓発する時です。

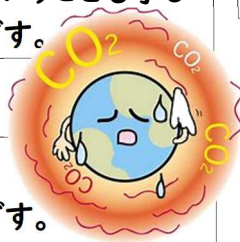
## 環境問題も非常事態です!

コロナのことで分かったこと。それは、自治体が旗を振ること、メディアが毎日発信する影響力です。環境問題につなげ市民の意識を変えるチャンスにしましょう。

△市の答弁

6月の環境月間、事業はすべて見送り。広報誌、HPで啓発。

●古川の意見 この問題も待ったなしです。市長自ら毎日の防災無線。賛否はありますが、インプットされました。市長自身が危機感を持ち、環境問題への旗を振り、市民が一丸となって取り組むよう発信して下さいと訴えました。



## 自給率の低い日本の農業、地域でできることから!

なぜ耕作放棄地が多いのか、なぜ食糧自給率が低いのか、行政も消費者も、衣食住を賄う第一次産業を大切に長期的なビジョンで営んでこなかった結果。

いつか農業従事者、担い手となる人が増える種まきとなるような最初の一步をオール各務原で市民の皆さんと共に作ってはどうか。例えばSDGs。循環型社会を目指し、農業を通して地域協働となる取り組みをコミュニティスクールで行っては。土づくりから野菜を育てる循環型の仕組みを市民公募で考える取り組みを提案しました。